

第282回 令和8年9月2日（水）

「10代、20代という季節について」

春は新緑が芽吹く季節で、風も心地良く感じます。生命のエネルギーにあふれ、太陽は人々に力を与えてくれます。

人間の寿命を知ることはできないものの、人生100年と言われている中で10代、20代が春にあたる時期といくつかの本に書かれています。「青春」という言葉が端的にそれを現していると言えるでしょう。

人生は先が長いので、この時期に失敗しても取り返しがつきます。むしろ色々なことに積極的にチャレンジすべきです。ここで一生をすべて決める必要はありませんし、失敗と思われたことが後々花開くこともあります。

日本について、一つだけ残念に思うのは、この時期に横並びで流れるように人生が決まってしまう若者が多いと思うことです。大学4年になると在学中から就職活動が始まって、「どのような仕事をしたいか」あまり悩む時間がなく、「行けるところ」に決めてしまいます。

外国では何年かモラトリウムのような時間をつくり、社会勉強や旅をする機会を持つ人がけっこういます。長い人生を流れや勢いで決めるのではなく、例えば見知らぬ土地でアルバイトをしながら自分探しをする時間を持ちます。日本の場合は履歴書の空白期間が嫌で、大学院で勉強するか、とりあえず就職をすることが多いような気がします。

私は教員になったことを後悔はしていません。バブル時代で日本は超売り手市場だったので、学生が内定をもらうことはそれほど難しくない時代でした。他社に引き抜かれないように、内定の日が迫ると学生を遊園地や観光地などに囲い込むような時代でした。

そのようなときにあえて教員採用試験を受けて険しい道を選んだわけですが、私の専門の社会科はさらに採用人数が少なかったため「30歳くらいまでに受ければいい」くらいの気持ちでした。幸い講師をしながら大学卒業後すぐの2度目のチャレンジで合格したのですが、そのときに勉強したことや経験したことが人生の大きな財産になりました。

一番は学ぶことが好きになったことです。受験勉強や学校の勉強はそれほど楽しいと思えなかったものが、自分の目標に向かって歴史を学び、教育法規や教育心理を学ぶことはとても楽しく思えました。いまでも自己啓発や歴史の本、経営学をよく読みますが、この1年の経験が礎になったことは確かです。人生の春の時代には時間より大切な学びがあることを覚えておいてください。青春時代をどう使うか、ぜひ自分で考えて、自分で使ってみてください。